

ずいそう

のと鉄道能登線宗玄トンネルが 日本酒の熟成蔵として復活



徳力 暁

能登半島の最先端にある珠州市宗玄と能登町恋路の間で、昨年4月のと鉄道能登線の廃線敷きに本物のレールが復活した。

走るのは4人乗り×2両連結の電動アシスト付き足こぎトロッコ（レールバイク）だ。わずか400メートルの区間だが、「奥のとトロッコ鉄道」（愛称「のトロ」）の誕生である。

運営するのは能登最古の酒蔵宗玄酒造と恋路観光協会などでつくる地域おこし団体「のと線遺産活用倶楽部」だ。

国鉄能登線が全線開通したのは今から丁度50年前の昭和39年（1964年）、新幹線こだまが開通し東京オリンピックが開催された年である。

しかしこの間奥能登の人口は半減し、9年前の平成17年（2005年）に廃線となったのである。

この奥能登地域を少しでも活性化しようと取り組んだのが、「のトロ」の復活だ。

恋路駅を出発すると、右手に桜並木、眼下に風光明媚な恋路海岸の景色が広がる。途中にはウッドデッキもあり、青い海をゆっくりと眺めることができる。海風や波の音が心地よい。やがて近づく宗玄トンネル。トンネルからはひんやりとした冷気が伝わってくる。

トンネル内は自然エネルギーを利用した宗玄酒造の貯蔵庫「隧道蔵」になっているため、一般の利用者はここでUターンして恋路駅に向かうことになる。しかし「のトロ」ファンクラブの会員になるとトロッコに乗ったままトンネルの中に入ることができるのだ。勿論宗玄酒造側にある宗玄駅からも乗り入れできる。（要予約）

トンネル自体は築50年以上経っているが、漏水も少なく比較的きれいに保たれている。全長130mだが両端を二重ドアで仕切り、中央部分の80m区間だけを貯蔵庫として利用している。

トンネル内部は年間を通じて12℃に保たれ湿度も高いことからワインセラーのように日本酒の熟成には理想的な環境だ。

このようなトンネル貯蔵庫は北陸では初めての試みであり、昨年秋から「隧道蔵」の商標名で純米酒や吟醸酒などを販売している。

半年程で熟成するので、一般のお客様にも自分だけの熟成酒を楽しむボトルキープをお奨めしている。隧道蔵オーナー倶楽部として募集しているが、現在100人程の会員の方からボトルをお預かりしている。

また、鉄道名称と同名の「のトロ」というキャラク

ターをつくり、トロッコのヘッドマークや切符、トンネル貯蔵酒のラベル、縫いぐるみ等のグッズ、着ぐるみなどとして親しまれている。

この様な取組みが評価され、昨年街づくり部門でグッドデザイン賞を頂いたところである。

来年3月にはいよいよ北陸新幹線金沢開業だ。勿論能登空港もある。

この機会に是非奥能登まで足を延ばし、「のトロ」に会いに来ていただきたい。

《参 考》

- 「のトロ」利用料金
大人500円、小人（小学生以下）300円
- 「のトロ」ファンクラブ
トロッコのオーナーになって、魅力づくりのサポートをしてみませんか。
会費：10,000円（税別）
特典：無期限乗り放題（要予約）。トンネル内も乗入れ可
パスポート（乗車証）発行。枕木にオーナープレート設置。
蔵開きや試飲会などのご案内。
- 隧道蔵オーナー倶楽部
自分だけの熟成酒を造って、楽しみませんか。
会費：年間維持管理費1,000円（税別）
トンネル貯蔵酒を6本以上ご購入下さい。
特典：専用棚で貯蔵熟成。隧道蔵の見学（要予約）。
蔵開きや試飲会などのご案内。



隧道蔵



グッドデザイン



宗玄駅



トロッコ上から